

野菜の需給・価格動向レポート(平成26年4月14日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	3月の価格情報					生育及び価格の4月の見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額						
		上旬	中旬	下旬				
葉 茎 菜	キャベツ 	88.05	100	103	94	・入荷見込量: 19,190t (100) ・主産地: 神奈川 (50)、愛知 (38)、千葉 (8)	・神奈川産及び愛知県産は、天候に恵まれ、適度な降雨もあったことから遅れていた生育も回復し、順調な出荷の見込み。 ・神奈川産及び愛知産の順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		83.73	98	100	78	・入荷見込量: 4,700t (90) ・主産地: 愛知 (58)、大阪 (12)、兵庫 (11)、三重 (6)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	229.99	337	457	253	・入荷見込数量: 4,090t (95) ・主産地: 千葉 (49)、埼玉 (20)、茨城 (14)、輸入 (4)	・千葉産は、適度な降雨と気温の上昇により生育も順調で、平年並みの出荷となり、今後も平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、春ものの生育が順調なことと2月中旬の降雪の影響で出荷が遅れていたものが重なり、少なかった前年を上回り、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、気温の上昇により生育は概ね順調で前年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		450.51	469	529	278	・入荷見込数量: 210t (101) ・主産地: 徳島 (27)、香川 (19)、三重 (18)、奈良 (14)、大阪 (8)、高知 (7)		
	はくさい 	61.12	64	75	68	・入荷見込量: 6,920t (100) ・主産地: 茨城 (78)	・茨城産は、秋冬ものが終盤を迎え、春もの中心の出荷となる。適雨・適温と日照時間にも恵まれ、生育、出荷ともに順調であることから、増加する見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、概ね平年並みに推移する見込み。	
		68.7	66	69	71	・入荷見込量: 3,000t (95) ・主産地: 長崎 (31)、熊本 (24)、宮崎 (20)、茨城 (14)		
	ほうれんそう 	307.66	439	535	368	・入荷見込量: 1,040t (95) ・主産地: 茨城 (30)、群馬 (26)、埼玉 (17)、千葉 (16)	・茨城産は、平年並みの出荷の見込み。群馬産及び埼玉産は、2月中旬の降雪の影響で、ハウス等の倒壊もあり少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。千葉産は、生育は若干遅れ気味で平年をやや下回る出荷であるものの、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産及び埼玉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		341.25	365	398	323	・入荷見込量: 540t (110) ・主産地: 岐阜 (29)、徳島 (29)、福岡 (25)		
	レタス (結球) 	199.64	177	189	141	・入荷見込量: 7,040t (95) ・主産地: 茨城 (64)、兵庫 (19)、香川 (3)	・茨城産は、適雨・適温により肥大も順調で、出荷はピークを迎えており、平年並みの見込み。兵庫産も、天候に恵まれ適度な降雨により順調な出荷となっており平年並みの見込み。 ・茨城産及び兵庫産の順調な出荷が見込まれることから、価格は、4月より平均価格が下がることもあり、平年並みに近づく見込み。	
		203.61	190	187	154	・入荷見込量: 1,250t (102) ・主産地: 兵庫 (57)、徳島 (16)、香川 (11)、茨城 (8)、長崎 (6)		
たまねぎ 	76.15	138	140	144	・入荷見込量: 14,470t (85) ・主産地: 佐賀 (54)、北海道 (37)、輸入 (4)	・佐賀産は、本格的な出荷の時期を迎え、生育は順調なことから平年並みの出荷となる見込み。北海道産は、貯蔵ものの出荷が終盤を迎えており、月末で終了する見込み。小玉傾向のため、平年を下回る出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
	76.15	142	137	141	・入荷見込量: 4,900t (87) ・主産地: 佐賀 (44)、北海道 (30)、長崎 (18)、兵庫 (7)			
果 菜	きゅうり 	253.93	334	386	262	・入荷見込量: 6,650t (90) ・主産地: 埼玉 (24)、群馬 (18)、千葉 (18)、茨城 (14)	・群馬産及び埼玉産は、2月中旬の降雪によるハウスの倒壊などにより、現在、少なめの出荷となっており、今後も引き続き少なめの出荷の見込み。千葉産は、気温の上昇と日照量の増加もあり肥大も回復したことから、平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産及び埼玉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。	
		242.77	309	363	251	・入荷見込量: 1,300t (82) ・主産地: 宮崎 (42)、高知 (22)、徳島 (17)、愛媛 (7)		
	トマト (大玉) 	339.78	380	348	324	・入荷見込量: 7,870t (100) ・主産地: 熊本 (26)、栃木 (25)、愛知 (14)、千葉 (6)、茨城 (5)、埼玉 (4)	・熊本産は、小玉傾向であるが、面積の増加もあり平年並みの出荷の見込み。栃木産は、2月中旬の降雪の影響も回復し、順調な生育で平年並みの出荷となっており、今後は気温の上昇とともに増加が見込まれるため、平年並みかやや多めの出荷の見込み。愛知産は順調な生育・出荷となることから、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。	
		321.78	361	345	328	・入荷見込量: 1,600t (92) ・主産地: 熊本 (66)、福岡 (14)		
	なす 	347.77	404	414	337	・入荷見込量: 3,250t (95) ・主産地: 高知 (52)、福岡 (23)、佐賀 (6)、群馬 (2)	・高知産は、気温の上昇と日照量の増加に伴い、順調な生育となっており、平年並みの出荷の見込み。福岡産は、気温の上昇に伴い、生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は引き続き平年並みで推移する見込み。	
		330.95	394	416	321	・入荷見込量: 850t (100) ・主産地: 高知 (32)、熊本 (23)、福岡 (16)、大阪 (13)、岡山 (11)		
	ピーマン 	551.24	663	665	440	・入荷見込量: 2,200t (100) ・主産地: 茨城 (50)、宮崎 (25)、高知 (14)	・茨城産は、天候に恵まれ順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。高知産は、気温の上昇と日照量の増加に伴い、生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれ、4月より平均価格が下がることから、平年並みに近づく見込み。	
		513.91	643	630	400	・入荷見込量: 430t (90) ・主産地: 宮崎 (55)、高知 (21)、鹿児島 (9)、茨城 (6)		
	根 菜	だいこん 	79.03	73	106	63	・入荷見込量: 12,200 (100) ・主産地: 千葉 (77)	・千葉産は、2月中旬の降雪の影響による収穫遅れの出荷と春ものの出荷が重なったことから平年を上回る見込み。今後は春ものに切り替わるため平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の順調な出荷が見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
			80.47	71	76	72	・入荷見込量: 3,300t (95) ・主産地: 長崎 (42)、鹿児島 (27)、香川 (15)、徳島 (6)、福岡 (6)	
にんじん 		101.05	150	160	148	・入荷見込量: 8,190t (100) ・主産地: 徳島 (81)、輸入 (7)	・徳島産は、天候に恵まれ順調な生育となり、平年並みの出荷の見込み。 ・徳島産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は概ね平年並みに推移する見込み。	
	104.73	121	128	150	・入荷見込量: 2,400t (95) ・主産地: 徳島 (73)、長崎 (13)、鹿児島 (10)			

種類	3月の価格情報				生育及び価格の4月の見通し		
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格					
		上旬	中旬	下旬			
いも	さといも	217.95	261	258	260	—	〈入荷量が少ないため、見通しは省略〉
		219.65	337	422	336		
も	ばれいしょ	88.17	103	96	107	・入荷見込量：10,570t (100) ・主産地：鹿児島 (51)、北海道 (45)	・鹿児島産は、離島地域から県内の出水地区への産地の切り替え時期となる。生育はおおむね順調で、作柄も良好であり豊作であった前年より少ないものの、平年並みの出荷の見込み。北海道産は、出荷の終盤を迎え、徐々に出荷量が減少する見込み。 ・鹿児島産が順調な出荷が見込まれ、4月より平均価格が上がることから、平年並みに近づく見込み。
		88.17	99	90	104	・入荷見込量：4,600t (95) ・主産地：鹿児島 (69)、北海道 (25)、長崎 (6)	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入数量及び購入金額 (1人当たりの購入数量と購入金額)				主要野菜の小売価格 (東京都区部) (単位：円/kg)									
	過去5か年平均		平成25年		平成26年		キャベツ		レタス		5か年比 (%)			
	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	前年比	購入金額 (円)	前年比	過去5か年平均	平成26年	過去5か年平均	平成26年		
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106	198	267	135	673	684	102
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105	211	234	111	605	578	95
3月	4,836	1,772	4,961	1,769		0		0	200	200	100	498	466	93
4月	4,747	1,838	5,019	1,809		0		0	248		0	469		0
5月	5,103	1,902	5,257	1,861		0		0	169		0	371		0
6月	5,092	1,885	5,249	1,897		0		0	137		0	317		0
7月	4,423	1,712	4,456	1,783		0		0	153		0	322		0
8月	4,324	1,713	4,422	1,741		0		0	140		0	415		0
9月	4,768	1,803	4,577	1,863		0		0	149		0	506		0
10月	5,238	1,861	5,225	1,932		0		0	158		0	449		0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806		0		0	162		0	421		0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093		0		0	162		0	521		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成20～24年の平均

資料：総務省「小売物価統計調査報告」注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。2 平成26年3月の値は、3月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

区分	野菜の輸入数量 (単位：トン、%)				主な野菜の輸入数量 (単位：トン、%)			
	平成24年		平成25年		平成26年1～2月		平成26年2月	
	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比		
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	177,701	129	83,607	117
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	290,667	98	120,196	95
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	468,368	108	203,803	103
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	236,099	107	91,874	93
中国産シェア	51		52		50		45	

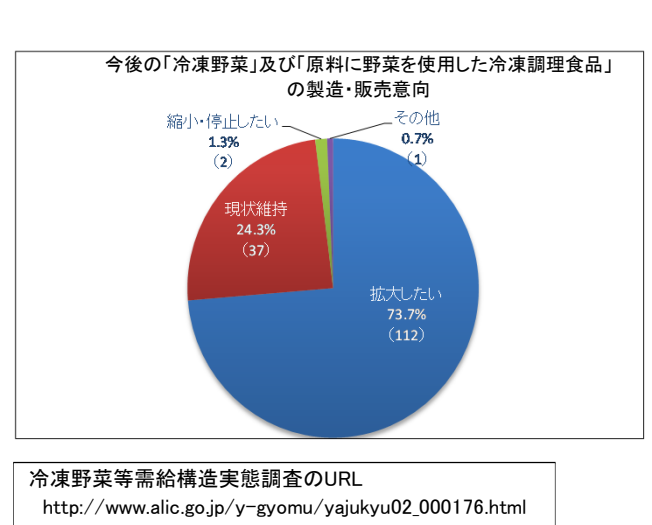
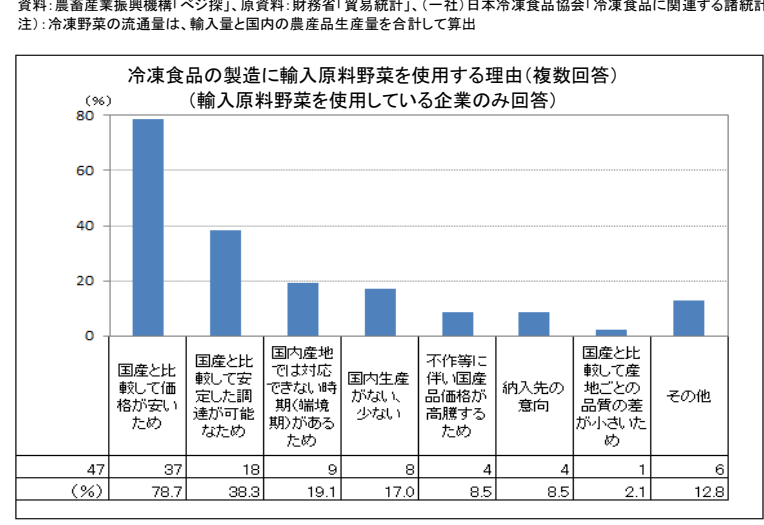
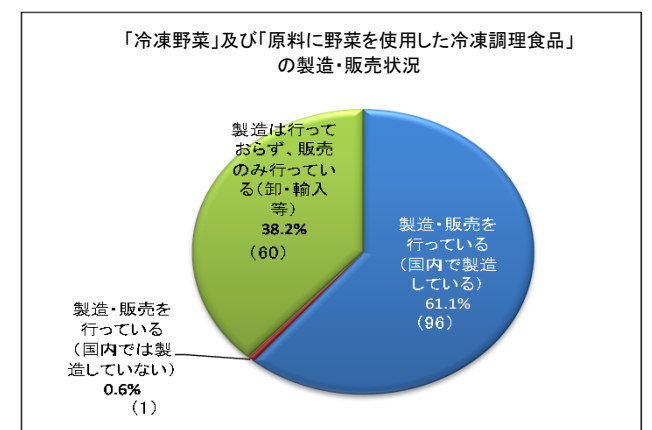
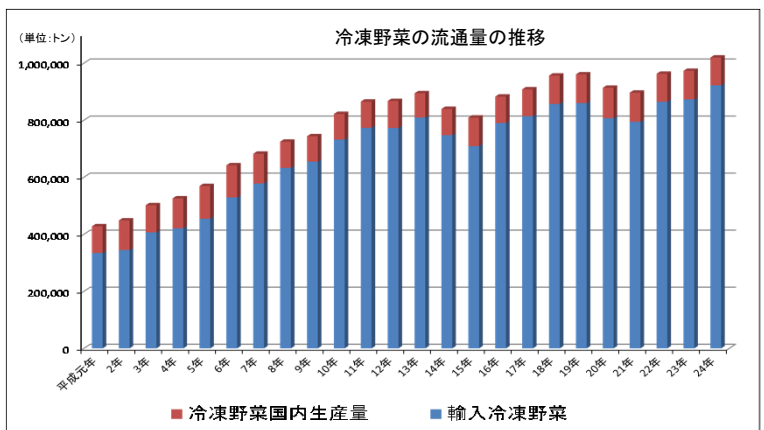
資料：ベジ探(原資料) 財務省「貿易統計」

品目	輸入先	平成25年2月(A)	平成26年2月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	17,907	28,919	161
	中国	13,645	21,421	157
	アメリカ	1,320	3,975	301
にんじん	合計	5,145	5,737	112
	中国	4,344	3,825	88
	台湾	475	837	176
ねぎ	合計	4,158	4,805	116
	中国	4,132	4,744	115

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年2月は、速報値。

4 トピック — 平成25年冷凍野菜等需給構造実態調査結果概要① —

野菜の加工・業務用需要が増加傾向にある中、利便性や価格の安定性などから、国内の冷凍野菜流通量(冷凍野菜輸入量+国内の冷凍農産品生産量)は増加傾向にあり、平成24年には100万トンを超えている。この状況を踏まえ、このたび機構は「野菜を使用した冷凍食品」に係るアンケート調査及びヒヤリング調査を実施した。これによれば、「冷凍野菜」及び「原料に野菜を使用した冷凍調理食品」を取り扱う企業を見ると、国内で製造・販売を行う企業(冷凍食品メーカー)は全体の61%を占め、販売のみを行う企業(輸入冷凍野菜販売企業)は38%を占めている。また、これら冷凍野菜等を製造する冷凍食品メーカーにおいては、国内産野菜の使用率(重量ベース)が91%と高く、国産野菜原料を主体に使用されている。一方、輸入冷凍野菜は、冷凍食品メーカーによる製品輸入や、販売のみを行う企業(冷凍野菜販売企業)による輸入により流通・販売が行われている。輸入冷凍野菜を使用する主な理由としては、「価格の安さ」「安定調達」がある。今後の冷凍野菜・冷凍調理食品の生産・販売の意向では、一部に縮小意向が見られるものの、国内産、輸入品の使用を問わず、拡大意向が7割強と高くなっている。冷凍野菜、冷凍調理食品の生産は、内食志向の強まりによる家庭用の伸長や堅調に推移する中食需要に加え、東日本大震災による施設等被害からの回復もあり、増加傾向にある。家庭用の冷凍野菜、冷凍調理食品には、国産原料品に対する一定のニーズがあり、その原料野菜の安定供給は、国内の野菜生産にとっても、ますます重要になっている。今回は、本調査に係る冷凍食品で使用されている原料野菜や販売先など需要についての概要を掲載予定。



●問い合わせ先 独立行政法人農産産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 河原、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。